

東部総合職業技術校 新型コロナウイルス感染症に対応した授業再開ガイドライン

2020. 5. 22

技術校生の健康を守り、技術校生が安心して訓練を受講できるため、新型コロナウイルス感染症に対応した授業再開ガイドラインを策定します。職員はガイドラインに従って、環境を整えとともに技術校生への支援を行ってください。

項目	ポイント	内 容	対 応
基本的な感染症対策	感染源を絶つ	体温のチェック	毎朝、自宅で体温を測定して体調管理記録表に記録をする。 体調管理記録表には、確認日、体温、睡眠時間、体調を記録し技術校生本人が管理する。 発熱や風邪症状があった場合は技術校へ連絡し、自宅で休養するように指示する。
		風邪症状等の確認	
	感染経路を絶つ	手洗い及び手指消毒	登下校時、昼食前、トイレの後等、こまめに石けんで手洗いをおこなう。 清潔なタオルを各自持参するように指示する。 外部からの出入り口には手指消毒用アルコールを設置し来校者へ消毒を促す。
		咳エチケットの徹底	校内では常時、マスクの着用を徹底する。 マスクの忘れ、紛失の場合はコース担当から支給する。 指導員もマスクを着用する。 必要に応じてフェイスシールドやマイクを活用し飛沫感染対策を講じる。
		環境衛生の保持	ドアノブ、手すり、スイッチなど複数の技術校生が触れる箇所を消毒する。 消毒は1日1回以上（技術校生登校前推奨）、ゴム手袋を着用して次亜塩素酸ナトリウムを0.05%に希釈した消毒液で拭いた後、水拭きを行う。 消毒の際に発生したペーパータオル等のゴミはビニール袋に入れ密閉して破棄する。 また、マスクや鼻をかんだティッシュ等、感染が懸念されるゴミについても同様の扱いとする。
	抵抗力を高める	十分な睡眠	生活のリズムを整え、十分な睡眠とバランスの取れた食事を促し、健康維持を周知する。
適度な運動			
バランスの取れた食事			
集団感染対策	密閉を防ぐ	換気の徹底	気候上可能な限り常時、可能であれば2方向の窓を同時に開けて換気を行う。 技術校生が使用している教室は、24時間換気を弱で入れることとし、空調の能力に合わせて24時間換気のオン・オフを調整する。 空気の流れが作りにくい場合には、扇風機を室外に向けて設置するなど処置を講じる。
	密接を防ぐ	ソーシャルディスタンスの確保	教室、実習場の席に間隔を1m以上空けるよう努力する
			1m以上の距離が保てない場合は、マスクの着用に加えて、衝立の設置やフェイスシールドの着用等、感染予防策を講じる
			県民対応を行う窓口は、透明なビニールシート等を用いて飛沫感染予防策を講じると共に待ち行列においても一定間隔を保てるように床に目印となるテープで立ち位置を示す。
			昼食時も同一方向を向いて着席をし対面には座らない。 多目的室前のテーブルは飲食可であるが、各テーブルの椅子は4つから1つに減らし、各テーブルの距離も空ける。
			更衣室の利用時間短縮を促す。 換気のスイッチは「普通換気」、「強」とし24時間運転する。必要に応じて排煙窓を活用する。
お弁当購入時も並ぶ間隔を空けるように床にテープ等を張り指示し、弁当販売業者にも伝える。			
密集を防ぐ	技術校生の分散	可能な範囲でグループに分かれて受講人数を減らして授業を行う。 昼食は、可能な範囲で複数個所に分散して取る。 天候の良い日は、中庭のベンチも活用する。 密集を防ぐことが困難な場合は多目的室を開放する。	
その他	体調管理	熱中症対策	マスク着用で体内に熱がこもりやすくなると同時にマスク内の湿度が上がって喉の渇きを感じづらくなり熱中症のリスクが高くなるのが指摘されているので、こまめな水分補給やマスク内の温度を下げるための休憩を考慮する。
		体調不良者への対応	発熱等体調不良者は自宅で休養するように促す。 一時退避場所は、講師控室の空き部屋を使用し、技術校生帰宅後に消毒をする。 保健室の利用は、貧血等転倒の恐れや緊急搬送のための待機場所とする。
	感染等への対応	技術校生が次のいずれかに該当する場合は、担当課長及び副校長へ至急に報告する。 ・新型コロナウイルスに感染していると判明した場合 ・新型コロナウイルスに感染している疑いがある場合 ・濃厚接触者に特定された場合 ・同居する家族等が新型コロナウイルスに感染した場合 ・同居する家族等が新型コロナウイルスに感染が疑われ、自宅療養や自宅待機となった場合 該当技術校生へ聴取すべき事項 ・コース名、・技術校生名、・感染等該当者、・技術校生との関係、・現在の症状、・症状の経緯、・感染経路、・過去2週間の行動記録、・職員及び技術校生内に濃厚接触者がいるか、最終の登校日	